

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年11月9日

【四半期会計期間】 第167期第2四半期  
(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

【会社名】 凸版印刷株式会社

【英訳名】 TOPPAN PRINTING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 金子真吾

【本店の所在の場所】 東京都台東区台東一丁目5番1号

【電話番号】 03(3835)5111(大代表)  
(上記は登記上の本店所在地で実質的な本社業務は下記で行っている。)

【事務連絡者氏名】 経理部長 久保 園 到

【最寄りの連絡場所】 (本社事務所)  
東京都千代田区神田和泉町1番地

【電話番号】 03(3835)5660

【事務連絡者氏名】 経理部長 久保 園 到

【縦覧に供する場所】 凸版印刷株式会社本社事務所  
(東京都千代田区神田和泉町1番地)  
株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

##### 連結経営指標等

回次		第166期 前第2四半期 連結累計期間		第167期 当第2四半期 連結累計期間		第166期	
		自 至	平成23年4月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年4月1日 平成24年9月30日	自 至	平成23年4月1日 平成24年3月31日
売上高	(百万円)		733,396		726,849		1,510,414
経常利益	(百万円)		12,461		5,276		30,850
四半期(当期)純利益	(百万円)		2,767		5,910		3,068
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)		5,577		992		11,362
純資産額	(百万円)		864,616		860,397		866,218
総資産額	(百万円)		1,629,003		1,528,966		1,586,823
1株当たり四半期(当期) 純利益	(円)		4.30		9.20		4.77
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)						
自己資本比率	(%)		45.0		47.4		46.1
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		53,882		43,465		83,456
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		49,769		12,323		89,030
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)		48,978		10,866		89,754
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)		242,547		211,428		190,804

回次		第166期 前第2四半期 連結会計期間		第167期 当第2四半期 連結会計期間	
		自 至	平成23年7月1日 平成23年9月30日	自 至	平成24年7月1日 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益	(円)		3.51		8.46

(注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載していない。

2 売上高には、消費税等は含まれていない。

3 第166期第2四半期連結累計期間、第167期第2四半期連結累計期間及び第166期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

#### 2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び連結子会社)が営む事業の内容について重要な変更はない。また、主要な関係会社に異動はない。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間における、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はない。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はない。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものである。

#### (1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）のわが国経済は、復興需要などを背景に持ち直しの動きが見られたものの、一方で欧州債務危機に端を発した世界的な景気減速懸念や、長引く円高傾向など、依然として景気の下振れリスクが存在しており、先行きの不透明な状況で推移した。

印刷業界においては、企業の広告宣伝費は足下では抑制傾向にあり、出版市場は依然として縮小傾向が続いている。個人消費については持ち直しの動きが見られたものの、本格的な回復には至らず、全体を通して厳しい経営環境となった。

このような環境のなかでトッパングループは、21世紀の企業像と事業領域を定めた「TOPPAN VISION 21」に基づき、「グループを含めた構造改革の遂行」、「新事業・新市場の創出」、「グローバルな事業展開の加速」を重要な経営課題と位置付け、収益体質の強化のためにグループ一体となって、既存事業においては競争優位性の確立とコスト削減を推進すると同時に、新たな収益モデルを早期に確立するために、成長分野に対する経営資源の投入を積極的に図った。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ0.9%減の7,268億円となった。また、営業利益は56.5%減の59億円となり、経常利益は57.7%減の52億円となった。四半期純利益は退職給付信託設定益59億円を計上したことなどにより113.6%増の59億円となった。

セグメントの業績を示すと、次のとおりである。

#### 情報・ネットワーク系事業

証券・カード関連では、ICカードは、電子マネーの普及が一段落し減少したが、証書や帳票類などの一般証券物、偽造防止などのセキュリティデバイスが増加し、前年を上回った。

商業印刷関連では、企業の販促活動再開に伴う受注機会の拡大や、トータルソリューション提案による得意先の多様な課題解決に努めた結果、チラシ、パンフレット・カタログ、SP関連ツールなどが増加した。また電子チラシサイト「Shufoo!（シュフー）」は、プッシュ型の電子チラシ配信「電子オリコミサービス」を展開、流通を中心にWeb限定チラシの配信が増加するなど、順調に事業を拡大している。

出版印刷関連では、出版市場が依然として縮小傾向で推移しており、雑誌・書籍ともに前年を下回った。一方で電子書籍市場においては、株式会社出版デジタル機構と株式会社ビットウェイで協働構築を進めていた電子書籍取次・配信システムが完成し、稼働に向けて最終的な調整を行っている。また株式会社BookLiveにおいては、コンテンツ販売に留まらず、年内発売予定の電子書籍端末まで含めたビジネスモデルの構築を推進してきた。

ビジネスフォーム関連では、ビジネスフォームは、経費削減、電子化に伴う需要量の減少などにより、前年を下回った。一方、データ・プリント・サービスは、プリント業務の一括アウトソーシング需要の取り込み、バリアブル印刷市場の開拓などにより、前年を上回った。

以上の結果、情報・ネットワーク系事業の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ2.6%増の4,281億円、営業利益は0.7%減の129億円となった。

#### 生活環境系事業

パッケージ関連では、透明ハイバリアフィルムや紙製飲料缶「カートカン」は、食の安全・安心意識や環境意識の高まりなどを背景に増加したが、消費市場における加工食品、日用品などの低迷により、軟包装材および紙器など、全体としては前年を下回った。

高機能部材関連では、太陽電池関連は、国内市場は拡大しているものの、世界的には太陽電池メーカーの過剰在庫による生産調整局面となり、前年を下回った。

建装材関連では、国内住宅市場が緩やかな回復傾向で推移するなか、独自ブランド「101エコシート」などの環境配慮型製品の積極的な販売展開を行うとともに、欧米向けの受注も取り込み好調に推移した。

以上の結果、生活環境系事業の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ0.7%減の1,978億円、営業利益は30.7%減の70億円となった。

#### エレクトロニクス系事業

半導体関連では、フォトマスクは、市況が軟調に推移するなか、先端品の開発需要の低迷などの影響を受け、前年を下回った。プリント配線板は、市況の低迷に伴い車載向けや通信向けが減少し、前年を下回った。

ディスプレイ関連では、カラーフィルタは、スマートフォンなどのモバイル向け需要を取り込んだが、テレビ向け需要減速の影響を受け、前年を下回った。反射防止フィルムは、テレビ向けやPC向けの需要を取り込んだものの、市場環境が厳しく低調であった。

以上の結果、エレクトロニクス系事業の売上高は前年同四半期連結累計期間に比べ13.2%減の1,140億円、16億円の営業損失（前年同四半期は営業利益29億円）となった。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ578億円減少し、1兆5,289億円となった。これは受取手形及び売掛金が341億円、機械装置及び運搬具が210億円、それぞれ減少したことなどによるものである。

負債は、前連結会計年度末に比べ520億円減少し、6,685億円となった。これは支払手形及び買掛金が198億円、退職給付引当金が58億円、それぞれ減少したことなどによるものである。

純資産は、前連結会計年度末に比べ58億円減少し、8,603億円となった。これは為替換算調整勘定が13億円増加したものの、その他有価証券評価差額金が72億円減少したことなどによるものである。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ206億円（10.8%）増加し、2,114億円となった。

#### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における営業活動の結果得られた資金は、前年同四半期連結累計期間に比べ104億円（19.3%）減少し、434億円となった。これは税金等調整前四半期純利益が49億円増加したものの、仕入債務の減少額が142億円増加したことなどによるものである。

#### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における投資活動により使用した資金は、前年同四半期連結累計期間に比べ374億円（75.2%）減少し、123億円となった。これは有価証券の取得による支出が174億円、有形固定資産の取得による支出が74億円、それぞれ減少したことなどによるものである。

#### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

当第2四半期連結累計期間における財務活動により使用した資金は、108億円となった。これは長期借入金の返済による支出が83億円あったことなどによるものである。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び連結子会社）が対処すべき課題について、重要な変更はない。

なお、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第118条第3号に掲げる事項）は次のとおりである。

会社の支配に関する基本方針

株式会社の財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容の概要

当社においては、当社の社会的使命を十分に理解し、専門性の高い業務知識や営業ノウハウを備えた者が取締役役に就任し、法令および定款の定めを遵守しつつ当社の財務および事業の方針の決定に携わることが、当社および当社株主の共同の利益に資するものと考えている。

不適切な者による支配の防止のための取組みの概要

当社取締役会は、不適切な者による当社の支配を防止する観点から、当社の株式に対する買収提案がなされた場合、その内容が妥当か否かを当社株主が適切に判断できるよう、大規模買付者および当社取締役会の双方から適切かつ十分な情報が提供されることが不可欠であると考えている。

そのため、平成19年6月28日開催の第161回定時株主総会の決議によって、特定株主グループの議決権割合を20%以上とすることを目的とする当社株券等の買付行為、または結果として特定株主グループの議決権割合が20%以上となる当社株券等の買付行為を行おうとする者に対して、事前に当社取締役会に対して必要かつ十分な情報を提供し、当社取締役会が当該情報を検討するために必要である一定の評価期間が経過した後のみ大規模買付行為を開始できることを要請する「大規模買付者による情報提供および当社取締役会による対抗措置の発動に関するルール（以下、大規模買付ルールという。）」の導入を決定している。

大規模買付者が大規模買付ルールを遵守しない場合には、具体的な買付方法の如何にかかわらず、当社取締役会は、特別委員会の勧告を最大限に尊重したうえで、当社および当社株主全体の利益を守ることを目的として、新株予約権の発行等、会社法その他の法律および当社定款により認められる対抗措置をとり、当該大規模買付行為に対抗する場合がある。

また、大規模買付ルールが遵守されている場合であっても、当社取締役会の評価として当該大規模買付行為が当社および当社株主全体の利益を著しく損なうと判断した場合には、同様に対抗措置をとることがある。

なお、当該ルールは、有効期限の到来に伴い、平成22年6月29日開催の第164回定時株主総会において、その更新を決議している。

上記 の取組みについての取締役会の判断

当社取締役会は、上記 の取組みが上記 の基本方針に沿って策定され、当社の企業価値および株主共同の利益を確保するための取組みであり、当社株主全体の利益を損なうものではないと考える。

また、当社は、取締役会によって恣意的な判断がされることを防止し、判断の合理性および公正性を担保するために、当社取締役会から独立した機関として特別委員会を設置している。特別委員会は、大規模買付行為を評価・検討し、特別委員会としての意見を慎重にとりまとめ、当社取締役会に対して勧告する。上記 の取組みには、新株予約権無償割当等、会社法その他の法律および定款により認められる対抗措置をとる場合には特別委員会の勧告を最大限尊重し、当社および当社株主の共同の利益を守ることを目的とすることが定められており、取締役の地位の維持を目的とするものではない。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループ（当社及び連結子会社）全体の研究開発費は10,110百万円である。

(6) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第2四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりである。

（異動）

平成24年8月11日付で堺ディスプレイプロダクト株式会社へエレクトロニクス系事業の一部を分離した。

会社名	事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額 (百万円)
提出会社	堺工場 (大阪府堺市堺区)	エレクトロニクス系事業	エレクトロニクス生産設備	30,776

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	2,700,000,000
計	2,700,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	699,412,481	699,412,481	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は1,000株である。
計	699,412,481	699,412,481		

(注) 提出日現在の発行数には、平成24年11月1日からこの四半期報告書提出日までの転換社債型新株予約権付社債の権利行使により発行された株式数は含まれていない。

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項なし。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項なし。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項なし。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年9月30日		699,412		104,986		117,738

(6) 【大株主の状況】

(平成24年9月30日現在)

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社信託口	東京都港区浜松町二丁目11 - 3	38,747	5.54
日本生命保険相互会社	東京都千代田区丸の内一丁目6 - 6	32,648	4.67
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社信託口	東京都中央区晴海一丁目8 - 11	30,919	4.42
第一生命保険株式会社	東京都中央区晴海一丁目8 - 12	22,886	3.27
従業員持株会	東京都千代田区神田和泉町1	16,804	2.40
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内二丁目7 - 1	15,628	2.23
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内一丁目1 - 2	15,628	2.23
株式会社講談社	東京都文京区音羽二丁目12 - 21	13,327	1.91
SSBT OD05 OMNIBUS ACCOUNT TREATY CLIENTS (常任代理人 香港上海銀行東京 支店)	豪州ニューサウスウェールズ州シドニー市 (東京都中央区日本橋三丁目11 - 1)	12,286	1.76
東洋インキSCホールディング ス株式会社	東京都中央区京橋二丁目3 - 13	10,500	1.50
計		209,377	29.94

- (注) 1 当社が当期末において保有している自己株式54,683千株(7.82%)については、上記の表中から除いている。  
 2 日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口及び日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社信託口の所有株式数は、全て信託業務に係るものである。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

(平成24年9月30日現在)

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 54,683,000		
完全議決権株式(その他)	普通株式 640,451,000	640,451	
単元未満株式	普通株式 4,278,481		一単元(1,000株)未満の株式
発行済株式総数	699,412,481		
総株主の議決権		640,451	

- (注) 1 「単元未満株式」欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が500株含まれている。  
 2 「単元未満株式」欄には、当社所有の自己保有株式が728株含まれている。

【自己株式等】

(平成24年9月30日現在)

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 凸版印刷株式会社	東京都台東区台東一丁目 5番1号	54,683,000		54,683,000	7.82
計		54,683,000		54,683,000	7.82

2 【役員の状況】

該当事項なし。



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成している。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けている。

1【四半期連結財務諸表】  
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	173,968	160,517
受取手形及び売掛金	426,715	392,564
有価証券	32,470	52,024
商品及び製品	38,133	36,895
仕掛品	38,504	38,817
原材料及び貯蔵品	23,516	23,436
その他	39,810	38,286
貸倒引当金	5,288	5,833
<b>流動資産合計</b>	<b>767,830</b>	<b>736,708</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物（純額）	264,356	252,286
機械装置及び運搬具（純額）	132,074	111,031
土地	138,115	138,050
建設仮勘定	23,374	25,825
その他（純額）	16,585	10,711
<b>有形固定資産合計</b>	<b>574,506</b>	<b>537,906</b>
<b>無形固定資産</b>		
その他	18,450	18,211
<b>無形固定資産合計</b>	<b>18,450</b>	<b>18,211</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	158,837	163,440
その他	72,740	78,016
貸倒引当金	5,541	5,316
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>226,036</b>	<b>236,140</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>818,992</b>	<b>792,258</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,586,823</b>	<b>1,528,966</b>

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	280,833	260,941
短期借入金	11,817	12,238
1年内返済予定の長期借入金	14,588	13,341
未払法人税等	9,999	6,688
賞与引当金	16,257	15,817
その他の引当金	862	470
その他	73,585	69,688
流動負債合計	407,944	379,185
固定負債		
社債	119,740	119,037
新株予約権付社債	590	590
長期借入金	111,933	109,027
退職給付引当金	46,351	40,476
その他の引当金	1,364	1,346
その他	32,679	18,906
固定負債合計	312,659	289,384
負債合計	720,604	668,569
純資産の部		
株主資本		
資本金	104,986	104,986
資本剰余金	117,738	117,738
利益剰余金	575,105	575,229
自己株式	55,591	55,890
株主資本合計	742,239	742,063
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	14,782	7,511
繰延ヘッジ損益	281	226
為替換算調整勘定	26,155	24,815
その他の包括利益累計額合計	11,091	17,077
新株予約権	33	13
少数株主持分	135,037	135,396
純資産合計	866,218	860,397
負債純資産合計	1,586,823	1,528,966

## (2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	733,396	726,849
売上原価	617,093	614,755
売上総利益	116,303	112,094
販売費及び一般管理費		
運賃	17,589	17,208
貸倒引当金繰入額	628	766
役員報酬及び給料手当	33,035	33,952
賞与引当金繰入額	6,267	5,963
役員賞与引当金繰入額	218	180
退職給付費用	2,268	2,478
役員退職慰労引当金繰入額	155	172
旅費	2,902	2,902
研究開発費	8,258	7,824
その他	32,555	34,693
販売費及び一般管理費合計	102,624	106,143
営業利益	13,679	5,950
営業外収益		
受取利息	282	286
受取配当金	2,135	2,274
持分法による投資利益	1,321	1,386
金利スワップ評価益	1,586	434
その他	2,206	1,295
営業外収益合計	7,532	5,677
営業外費用		
支払利息	1,821	1,581
為替差損	1,757	1,293
複合金融商品評価損	1,623	399
その他	3,547	3,076
営業外費用合計	8,749	6,351
経常利益	12,461	5,276

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>特別利益</b>		
固定資産売却益	76	978
投資有価証券売却益	69	2,242
退職給付信託設定益	-	5,917
その他	3	27
特別利益合計	149	9,164
<b>特別損失</b>		
固定資産除売却損	886	943
投資有価証券評価損	3,800	1,506
投資有価証券売却損	0	37
災害による損失	988	-
その他	18	128
特別損失合計	5,694	2,616
税金等調整前四半期純利益	6,916	11,824
法人税、住民税及び事業税	7,591	6,984
法人税等調整額	5,077	1,659
法人税等合計	2,514	5,325
少数株主損益調整前四半期純利益	4,402	6,499
少数株主利益	1,635	588
四半期純利益	2,767	5,910

【四半期連結包括利益計算書】  
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	4,402	6,499
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,938	6,887
繰延ヘッジ損益	75	54
為替換算調整勘定	110	1,961
持分法適用会社に対する持分相当額	577	526
その他の包括利益合計	1,175	5,506
四半期包括利益	5,577	992
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,915	74
少数株主に係る四半期包括利益	1,662	1,066

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	6,916	11,824
減価償却費	39,275	33,898
退職給付引当金の増減額(は減少)	528	5,831
受取利息及び受取配当金	2,418	2,561
売上債権の増減額(は増加)	34,678	34,929
たな卸資産の増減額(は増加)	11,574	1,055
仕入債務の増減額(は減少)	5,867	20,127
その他	3,416	1,836
小計	58,122	51,351
利息及び配当金の受取額	2,421	2,566
利息の支払額	2,018	1,676
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	4,643	8,776
営業活動によるキャッシュ・フロー	53,882	43,465
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	102	4,100
有価証券の取得による支出	17,455	-
有価証券の売却による収入	8,259	10,900
有形固定資産の取得による支出	34,747	27,283
有形固定資産の売却による収入	1,579	504
無形固定資産の取得による支出	2,400	2,201
投資有価証券の取得による支出	1,682	3,848
投資有価証券の売却及び償還による収入	236	5,342
長期貸付けによる支出	105	9,301
事業分離による収入	-	9,114
その他	3,557	349
投資活動によるキャッシュ・フロー	49,769	12,323
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	910	330
長期借入れによる収入	62,171	4,111
長期借入金の返済による支出	69,993	8,347
社債の償還による支出	35,050	-
自己株式の取得による支出	12	57
配当金の支払額	4,514	5,803
その他	669	1,100
財務活動によるキャッシュ・フロー	48,978	10,866
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,048	348
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	45,914	20,624
現金及び現金同等物の期首残高	288,461	190,804
現金及び現金同等物の四半期末残高	242,547	211,428

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日至平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更している。 この変更により、従来の方法に比べて、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ333百万円増加している。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

(1) 連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対する保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	百万円	百万円
P.T.MATSUZAWA PELITA FURNITURE INDONESIA	42 * 1	41 * 4
Advanced Mask Technology Center GmbH & Co.KG	1,680 * 2	1,534 * 5
Toppax LLC	639 * 3	589 * 6
計	2,362	2,165

上記\*1の一部、\*2、\*3、\*4の一部、\*5及び\*6は外貨建保証債務額であり、\*1の一部、\*2及び\*3については前連結会計年度末日の為替相場により、\*4の一部、\*5及び\*6については当第2四半期連結会計期間末日の為替相場により、それぞれ円換算している。

- \* 1 20百万円 ( 248千米ドル)
- \* 2 1,680百万円 (15,308千ユーロ)
- \* 3 639百万円 ( 7,774千米ドル)
- \* 4 19百万円 ( 248千米ドル)
- \* 5 1,534百万円 (15,308千ユーロ)
- \* 6 589百万円 ( 7,593千米ドル)

(2) 従業員住宅借入金に対する保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	6百万円	5百万円

(3) 勤労者財産形成促進法に基づく従業員の銀行からの借入金に対する保証

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	3百万円	2百万円

2 受取手形割引高

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
	293百万円	775百万円



(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
現金及び預金勘定	168,563百万円	160,517百万円
有価証券勘定	85,056	52,024
計	253,620	212,541
預入期間が3か月を超える定期預金	325	411
償還期間が3か月を超える債券等	10,746	702
現金及び現金同等物	242,547	211,428

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年5月26日 取締役会	普通株式	4,514	7円00銭	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年11月8日 取締役会	普通株式	5,803	9円00銭	平成23年9月30日	平成23年12月9日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

1 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年5月31日 取締役会	普通株式	5,803	9円00銭	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年11月6日 取締役会	普通株式	5,802	9円00銭	平成24年9月30日	平成24年12月10日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	情報・ネット ワーク系事業	生活環境系 事業	エレクトロニ クス系事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	411,027	191,168	131,200	733,396		733,396
セグメント間の内部売上高 又は振替高	6,317	8,026	247	14,590	14,590	
計	417,344	199,194	131,448	747,986	14,590	733,396
セグメント利益(営業利益)	13,022	10,126	2,999	26,149	12,470	13,679

(注) セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 12,382百万円等が含まれている。全社費用は、主に当社の本社部門及び基礎研究部門等にかかる費用である。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
	情報・ネット ワーク系事業	生活環境系 事業	エレクトロニ クス系事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	422,675	190,258	113,915	726,849		726,849
セグメント間の内部売上高 又は振替高	5,447	7,629	130	13,208	13,208	
計	428,123	197,888	114,045	740,057	13,208	726,849
セグメント利益又は損失( ) (営業利益又は営業損失( ))	12,928	7,022	1,618	18,332	12,382	5,950

(注) セグメント利益の調整額には、各報告セグメントに配分していない全社費用 12,089百万円等が含まれている。全社費用は、主に当社の本社部門及び基礎研究部門等にかかる費用である。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項なし。

(企業結合等関係)

当第2四半期連結会計期間(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)

## 事業分離

### 1 事業分離の概要

#### (1) 分離先企業の名称

堺ディスプレイプロダクト株式会社

(平成24年7月17日付でシャープディスプレイプロダクト株式会社から商号変更)

#### (2) 分離した事業の内容

当社の堺工場における液晶カラーフィルタ事業

#### (3) 事業分離を行った主な理由

当社の堺工場における液晶カラーフィルタ事業を、堺ディスプレイプロダクト株式会社に統合することにより、液晶パネルの主要部材であるカラーフィルタも含めた大型液晶事業の一層の効率化を図るため。

#### (4) 事業分離日

平成24年8月11日

#### (5) 法的形式を含む事業分離の概要

当社を分割会社、堺ディスプレイプロダクト株式会社を承継会社とし、現金及び株式を対価とする吸収分割である。

### 2 実施した会計処理の概要

#### (1) 移転損益の金額

移転損益は軽微である。

#### (2) 移転した事業に係る資産及び負債の適正な帳簿価額並びにその主な内訳

流動資産	1,643百万円
固定資産	30,776 "
資産合計	32,419百万円
固定負債	6,370百万円
負債合計	6,370百万円

#### (3) 会計処理

移転したことにより受け取った対価となる財産の時価と、移転した事業に係る株主資本相当額との差額を移転損益として認識している。

### 3 セグメント情報の開示において、分離する事業が含まれている区分の名称

エレクトロニクス系事業

### 4 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に計上されている分離した事業に係る損益の概算額

	累計期間
売上高	5,579百万円
営業利益	1,840 "

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりである。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益	4円30銭	9円20銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(百万円)	2,767	5,910
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,767	5,910
普通株式の期中平均株式数(千株)	643,180	642,462
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	2026年満期ユーロ円建転換制限条項付転換社債型新株予約権付社債(券面総額34,850百万円並びに新株予約権1種類(新株予約権の数6,970個)を平成23年6月12日に償還している。	

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載していない。

(重要な後発事象)

該当事項なし。

2 【その他】

平成24年11月6日開催の取締役会において、第167期中間配当に関し、次のとおり決議した。

- (1) 中間配当による配当金の総額・・・・・・・・・・・・・・・・ 5,802百万円
- (2) 1株当たりの金額・・・・・・・・・・・・・・・・ 9円00銭
- (3) 支払請求権の効力発生日及び支払開始日・・・・・・・・ 平成24年12月10日

(注) 平成24年9月30日現在の株主名簿に記載または記録された株主または登録質権者に対し、支払を行う。

## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項なし。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年11月7日

凸版印刷株式会社  
取締役会 御中

### 有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 佐藤孝夫 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 福田秀敏 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 武田良太 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている凸版印刷株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、凸版印刷株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。  
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管している。  
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていない。